

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

近隣地域などから侵入しました。鹿児島県では一般防除種に指定され、鹿児島市、口永良部島、沖永良部島で確認されています。中毒による家畜の健康被害が確認されています。自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りにより除去しましょう。

1 基本情報

分類	
目・科名	キク科
種名(亜種名)	オオオナモミ
学名	<i>Xanthium occidentale</i>
環境省カテゴリ	その他の総合対策外来種
県カテゴリ	一般防除種
由来	国外由来外来種
侵略的外来種番付表	前頭(本土)
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種
その他カテゴリ (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的外来種ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100
侵入・定着の状況	
自然分布域	北アメリカ
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	近隣地域などからの侵入
県内の侵入分布	鹿児島市、口永良部島、沖永良部島
全国の侵入分布	ほぼ全国
生態学的特性	
生態	土壌条件に対する適応性が大きい。
形態	茎の長さは0.5～2.0mの一年生草本。茎は短毛があつてざらつき、紫褐色を帯びる。葉は広卵形で通常は3個、ときに5個に中程まで裂ける。表面は細かい毛があり、裏面は短毛があつてざらつく。雄花は黄白色、雌花は淡緑色。トゲは15～25mmで褐色に成熟する。
繁殖形態	花期は9～12月。
生息環境	野原や市街地の空き地、河川敷、道端に生育する。
特記事項	—



2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	②家畜の健康被害(中毒)。
県内で特に予想される被害	県内の家畜への健康被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②近隣地域などからの侵入。
3 対策	
オオオナモミを見つけたら	自己の管理地に生えている場合は、できれば刈り取り、抜き取りにより除去しましょう。
見分け方	オオオナモミの果実は、トゲが密にあるが、毛はイガオナモミより少ない。類似種のオナモミの果実は、トゲも毛も少ない。また、イガオナモミの果実は、3種のうちトゲと毛がもっとも多い。
見かけやすい場所・時間	上流～中流の流水辺で、泥土の堆積した富栄養地に大群落をつくる。樹木や多年草植物が生育できないダム湖内や定期的に泥土に覆われる河原などに生育する。
防除方法	開花前の刈り取り、抜き取り、除草剤による防除。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80660.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 清水(2003)日本帰化植物写真図鑑. 平凡社. 東京